

**製品名: PROZ マウスモノクローナル抗体**

**カタログ番号: AMM80755**

研究使用のみ

## 概要

|        |                                                   |
|--------|---------------------------------------------------|
| 説明     | マウスモノクローナル抗体                                      |
| 宿主     | ねずみ                                               |
| 応用     | WB,ELISA                                          |
| 反応性    | 人間                                                |
| 標識     | 非共役                                               |
| 修飾     | 未修正                                               |
| アイソタイプ | Mouse IgG1                                        |
| クローン性  | モノクローナル                                           |
| 形態     | 液体                                                |
| 濃度     | 1mg/ml                                            |
| 保存     | アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送     | 氷袋                                                |
| バッファー  | 0.03%アジ化ナトリウムを含む PBS。                             |
| 精製     | アフィニティー精製                                         |

## 応用

|      |                                      |
|------|--------------------------------------|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000 |
| 分子量  | 45kDa                                |

## 抗原情報

|              |                             |
|--------------|-----------------------------|
| 遺伝子名         | PROZ                        |
| 別名           | protein Z; PZ               |
| 遺伝子 ID       | 8858.0                      |
| SwissProt ID | P22891                      |
| 免疫原          | 大腸菌で発現した PROZ の精製された組み換え断片。 |

## 背景

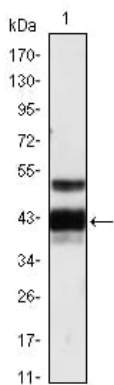
PROZ プロテイン Z は、ビタミン K 依存性血漿糖タンパク質です。分子量は 62kDa で、396 アミノ酸残基から構成されています。4 つのドメイン（GLA に富む領域、2 つの EGF 様ドメイン、およびトリプシン様ドメイン）から構成されています。セリンプロテアー

ぜとして触媒活性を示すセリン残基を欠いています。血栓の形成につながる血液タンパク質群である凝固カスケードの一員です。ビタミンK依存性であるため、ワルファリン療法では機能が損なわれます。糖タンパク質です。酵素活性はありませんが、凝固カスケードのいくつかのセリンプロテアーゼ（第VII因子、第IX因子、第X因子、およびプロテインC）と構造的に関連しています。カルボキシグルタミン酸残基（ビタミンKを必要とする）は、プロテインZをリン脂質表面に結合させます。プロテインZの主な役割は、第Xa因子の分解であると考えられています。これはプロテインZ関連プロテアーゼ阻害剤（ZPI）によって行われますが、プロテインZの存在によって反応は1000倍加速されます。奇妙なことに、ZPIは第XI因子も分解しますが、この反応はプロテインZの存在を必要としません。一部の研究では、欠乏状態は血栓症の傾向と関連付けられています。一方、出血傾向と関連付ける研究もあります。ZPIは生理学的に阻害剤として作用するため、欠乏は論理的に血栓症の素因につながるため、明確な説明はありません。

## 研究分野

-

## 画像データ



PROZ マウス mAb を用いたヒト血漿に対するウエスタンブロット解析 (1)。